史跡古津八幡山遺跡保存活用計画推進委員会（第2回）・
古津八幡山遺跡確認調査指導部会（第3回）
議事内容要点

日　時　平成 30 年3月 15 日（木）
午後1時 30 分～
会　場　新潟市新津美術館レクチャールーム

出席委員
小林達雄委員・石川日出志委員・川上真紀子委員・小林圭一委員・齋藤純子委員・
朱雁委員・高橋郁子委員・橋本博文委員・渡邊正紀委員・石黒立人委員
欠席委員
中山利之委員・菊地芳朗委員
指導・オブザーバー
新潟県教育庁文化行政課　田中祐樹氏
新潟県埋蔵文化財調査事業団　沢田敦氏

当日次第
1　開会

2　挨拶

3　報告・議題
（1）保存管理関係
a. H29 年度古津八幡山遺跡確認調査結果の報告
○遺構の呼称について
●委員意見：「竪穴建物」ではなく、「竪穴住居」という名称を使用している経緯・根拠は？
◆事 務 局 ：古津八幡山遺跡ではこれまで「竪穴住居」という名称を使用しており、看板やガイドブックにも反映させている。住居ではないことを否定する根拠がない現状において、一般市民にも説明がしやすいことなどから、現時点においては「竪穴住居」という名称を使用している。
●委員意見：厳密には「竪穴建物」という表記になると思うが、これまで「竪穴住居」という判断がされてきており、その判断で復元整備もされている。基本的には「竪穴住居」ということで議論を進めていき、今後の調査結果で考え直すという扱いにするのが良いのではないか。

○竪穴住居の性格について
●委員意見：今回の調査は遺跡の広がりを明らかにすることが出発点だと思うが、遺構が出てきたことによって、これからは遺構の性格を明らかにしていく段階にある。いままでは史跡指定になっている濠の内側に居住性を持つと考えている竪穴建物があったが、今回は濠の外側で比較的低いところに、小さくみて 7.5m、大きくみて 9.5m規模の竪穴住居が出てきた。時期的な変遷の問題も考慮しなくてはいけないが、濠の内側で見つかった竪穴建物の規模より今回見つかった竪穴建物のほうが大きい。この竪穴建物やその周辺から出てきた掘立柱建物のピットはどういう性格なのか。もしこの掘立柱建物が倉庫のような性格であったとした場合、隣接している大型建物と同時期で、その大型建物は居住性をもった建物なのか、それとも倉庫の管理棟みたいな建物なのか。今回見つかった竪穴建物ないし掘立柱建物がどういった性格を持っ

た建築物、構造物なのかという見通しなど、集落構造の視点から意識を持って調査をして欲しい。

○柱穴・掘立柱建物の性格について

●委員意見：ピットは建物だけではなく、柵列なども存在する可能性を考慮する必要がある。掘立柱建物のピットとして性格が決まっているものは別だが、ピットが確認されたエリアが倉庫群というような特別な場所とすると、その周囲にはそれなりの施設が併設されている可能性がある。

竪穴建物に関しても、北陸地方だといわゆる平地式という建物もあり、それが平地部だけで高台にはないのかという疑問がある。どのような建物構造が復元できるのか、柱穴についてもどういう性格をもった柱が想定できるのかということも含めて調査してほしい。

●委員意見：柏崎で見つかった西岩野遺跡のように、環濠の外で出てきた大型建物を倉庫とするのか、そうではなくて祭祀性を持った大型建物とみるのか、掘立柱建物の性格もいろいろな可能性があるので、始めからこうではないかと予見せずに調査した方が良い。

●委員意見：（調査区内に）樹木があってなかなか自由には掘れないが、竪穴住居の性格を見極める為にも、できれば 4 分の１くらいは全部掘ってみて、柱穴の問題などをもう少し具体的に考察できるようにして欲しい。思い切って面的に掘るくらいの調査をして欲しい。

●委員意見：図を見るとピットには円形のものと不整形のものがあると思うが、例えばピット 60 などは方形に見えなくもないが、調査された方の認識としてはどうなのか。

◆事 務 局 ：ピット 60 の掘り方については完全に方形というわけではないが、半裁した限りは四角形に近い掘り方であった。また、ピット 41 や 52・59 も同様である。方形の掘り方のピットがあるかどうかは今後の課題であり、来年度の調査ではそれらについても確認したいと考えている。

b. 来年度の確認調査計画について

○発掘調査の方法について

●委員意見：次年度の調査方法について、基本的には説明のあった調査の手順で適切だ。今年度の調査で（遺構の）南北方向の広がりがかなり掴めているので、来年度は東西方向に長く伸びるトレンチを入れて、（遺構の）東西方向の広がりを抑える。そして様子を見て平面的に広げていくという方法は適切だと思う。

竪穴建物の中央に十字方向の（土層観察用）ベルトが設定されているが、杉の木がこの上部に３本あり、とりわけ１本の杉があるために中央部分を掘ることができない。できればこの杉を伐採して、十字方向の（土層観察用）ベルトのラインに沿って掘ることができないか。

◆事 務 局 ：杉の木を伐採して、中軸（ベルト）に沿うような形でトレンチを入れる方向で再度検討したい。トレンチ調査の状況を見つつ面的に広げていく方針である。竪穴住居の南西側１／４程度を面的に掘り下げることを考えている。

（2）整備関係

ａ．復元竪穴住居（2号棟）のき損について

●委員意見：参考までに竪穴住居を１棟復元するのにどの位の予算がかかるのか教えて欲しい。

◆事 務 局 ：平成 20 年度では、５棟の竪穴住居を復元するのに約 2,290 万円かかっている。

（３）活用関係

ａ．ワークシート

●委員意見：事前にワークシートと教材資料をみたが、正直なところこのままでは少し出しにくい。単純な誤字脱字などを慎重に整えていく必要がある。学校関係者や現場を経験された方に点検してもらうと良いのではないか。

ｃ．その他（フォトコンテスト、小・中学校教材資料、シンポジウム、周辺施設との連携事業、来年度の企画展・イベントなど）

●委員意見：イベントの「発掘体験」というのは、市民参加の発掘をするということか。

◆事 務 局 ：実際に発掘現場で作業してもらうのではなく、弥生の丘展示館の砂場にこちらで作った土器片を埋めて、発掘を疑似的に体験してもらうイベントである。ガムテープなどで割れた土器片の接合体験もしてもらい、担当者がそれらの土器や時代について説明をする。主に小学生が参加している。

（４）運営・連携体制関係

ｂ．事業目標・点検シート

●委員意見：き損した２号竪穴の点検をする場合、別の観察シートを用意しないと対応しきれないわけだが、別途これから作成するということで良いか。

◆事 務 局 ：別途作成する。

４　その他

５　閉会